

主体的・対話的で深い学びの授業構想（科目「原価計算」）

1 対象生徒

2年次の総合ビジネス科の生徒を対象とする。2年次から科目「原価計算」を学習し、個人差はあるが原価計算の問題の解法はある程度理解できている。しかし、その得られた結果の分析や実社会における活用方法などの発展的な学習においては、他者と協働して答えを導き出すことを苦手とする傾向がある。

2 単元

第15章 標準原価計算 第2節 「原価差異の計算と分析」（全12時間）

3 単元目標

標準原価計算の差異の計算方法と分析の手法を理解させ、差異の要因とその改善方法を考案させる。

4 本時の目標

直接材料費の標準原価と実際原価の差異分析の手法を理解させる。また、分析結果による次月における原価管理を主体的に考えられる能力を育成する。そしてグループワークを通して、さまざまな視点から課題解決に向かって対話的で深い学びができることを体験させる。（4/12時間）

5 授業展開構想

課題の提示
A社では標準原価計算を用いて原価管理を行っており、会計部門が毎月の月次決算から差異分析を行っている。しかし、昨今はさまざまな理由から直接材料費において標準原価と実際原価の差が埋まらないのが現状である。そこで会計部門から製造部門に対して、差異の分析と改善要求があった。算出された標準原価データと前月の実際原価の資料から差異を分析し、次月における改善方法を検討し、改善案シートを作成しなさい。

思考のための資料と想定される生徒の活動		
【資料1】 ・分析結果資料について	【資料2】 ・原価差異（消費価格差異・消費数量差異）の要因について	【資料3】 ・改善案シートの提案について
【想定される生徒の活動】 ・直接材料費における差異分析を行う（個人）。	【想定される生徒の活動】 ・原価差異の計算結果を基に、差異ごとの要因を探り出し、検討する。	【想定される生徒の活動】 ・製造現場の視点で考えた原価管理についての改善方法を各自で考察し、グループで発表する。

対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料から差異の分析を各自で行い、資料1を作成する。（15分） ・5人のグループで、資料1の結果について確認をする。各原価差異の要因を探り、意見を出し合って、資料2を作成する。（15分） ・各原価差異について、改善すべき点を各自で考察し、製造現場における改善案を付箋に書いて、グループにもち寄る。（10分） ・グループで各自の意見を集約し、資料3を作成し、発表する。（10分） 	
【50分×1時間で実施】	

学習の成果	
<ul style="list-style-type: none"> ・直接材料費差異の分析方法を理解し、活用できるようになった。 ・差異の要因を主体的に探ることができた。 ・一つの課題解決に向けて、グループでの活動を通してさまざまな視点での考え方があることを理解できた。 ・これまで学んできた知識を、実社会で生かす方法を見いだすことができた。 	

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための視点	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> ・標準原価計算における直接材料費差異の分析方法（計算方法）を理解している。 ・各原価差異での要因となる事柄を理解している。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて必要とされるデータを整理し判断できている。 ・原価管理を適切に行うために、何を最優先に改善すべきか判断できている。 ・自分の思考を言葉で適切に表現できている。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で学んだ知識を生かし分析している。 ・意見交換に積極的に関わり、課題解決に向けて探究的に活動できている。